

● 「三国通覽輿地路程全図」

仙台の経世思想家・林子平著『三国通覽図説』の附図である。天明6年(1786)に刊行されたが、寛政4年(1792)に林子平が処罰された際に絶版を命ぜられた。本図は文化元年(1804)に写されたものである。朝鮮、琉球、蝦夷地、小笠原諸島の絵図と、日本とそれらの地域との路程を示した絵図が収録されている。最後の絵図には、日本海上に竹島が描かれ、朝鮮と同じ黄色で彩色され、「朝鮮ノ持也」と記されているが、これは現在の鬱陵島である。竹島のすぐ東側にも小島が二島描かれているが、これは鬱陵島の属島であると考えられる。朝鮮半島東側にも島があるが、これも現在の鬱陵島であると考えられる。つまりこの絵図では、現在の竹島(当時の松島)は描かれておらず、現在の鬱陵島が、日本名の竹島と朝鮮名の鬱陵島というように、別の島として認識されていたことが分かる。

● 「大日本海陸全図」

水戸藩の地理学者・長久保赤水の「改正日本輿地路程全図」を参考に、海路の里数を加えた日本図である。江戸の絵師・整軒(梅素亭)玄魚が編集し、文久4年(1864)に江戸の恵比寿屋庄七が刊行したものである。整軒玄魚の日本図は嘉永6年(1853)、7年にも刊行されていることから、本図は改訂版といえる。隠岐諸島の北西に、竹島(現在の鬱陵島)と松島(現在の竹島)を描いている。竹島、松島ともに、隠岐諸島と同じ黄色で彩色されていることが注目される。江戸時代末期には両島が隠岐国として認識されていたことが分かる。

● 『小学用地図』所収「山陰道之図」

大阪の山口松次郎が編集し、大阪師範学校(現在の大阪教育大学)の天野皎が監修した地図帳で、明治9年(1876)に出版された。小学校の地理教科書『日本地誌略』・『万国地誌略』を使用するための地図帳として刊行された。『日本地誌略』・『万国地誌略』は明治7年に文部省が刊行した教科書で、そのうち『日本地誌略』の隠岐国には、「西北ノ洋中ニ松島・竹島アリ」と記している。この地図帳の「山陰道之図」では、隠岐諸島の北西に、竹島(現在の鬱陵島)、松島(現在の竹島)が描かれている。地図帳の記載は教科書の記載に対応したものであると考えられ、明治初期にも両島が隠岐国として認識されていたことが分かる。